

「be going to は未来を表す表現です」—この説明から入ると、中1の教室では急に遠い話になります。でも「もう決まっている冬休みの予定」なら、遠くありません。カレンダーに書いてある。家族と約束してある。この授業案は、先生の冬休みの決定事項を質問攻めで当てさせ、次に先生の冬休みを生徒に決めさせる—たずねる側と決める側をひっくり返ししながら、be going to だけを50分使い倒す導入です。

この教材で解決できる悩み

- 未来表現の導入が「will と be going to の違い」の説明から始まってしまい、初出の日から重い
- I going to watch TV. (be動詞落ち) ・ is going to plays (原形くずれ) が最初から混ざる
- 「予定を英語で言おう」と言っても、生徒から予定そのものが出てこない

教材の概要

項目	内容
対象	中学1年 (ONE WORLD I Lesson 8. NEW CROWN I Lesson 9 の be going to にも対応)
文法項目	be going to+動詞の原形 (肯定・疑問 Are you going to ~?と応答) ※will・感嘆文は扱わない
形式	授業案A4 (印刷版PDF・板書例と動詞の足場つき)
所要時間	50分×1コマ
準備物	なし (黒板とノートで完結。先生の手帳かスマホのカレンダーがあると導入が締まります)

授業の流れ (50分)

導入：先生の冬休み、もう決まってることが3つある (10分)

手帳 (またはスマホのカレンダー画面) を掲げて宣言します。「先生の冬休み、もう決まっていることが3つあります。当てたら拍手」。板書は質問の型をひとつだけ—Are you going to ~? (～する予定ですか?)—と動詞の候補: sleep / watch / eat / go to / play / study / clean / visit。生徒は挙手で質問攻めです。Are you going to sleep a lot? – No, I’m not! (したいけど)。当たりが出るたび、その文を I’m going to ~. の形で板書に残します。3つそろったら導入は成功—黒板には、全部先生の実話という本物の be going to の文が3つ残ります。この時点で文法の説明はまだしません。型を1つ貸しただけです。年明けの実施 (NEW CROWN I Lesson 9 勢) なら「先生の3学期・春休みに決まっていること」に置き換えるだけで回ります。

気づき：be going to は be動詞の文 (8分)

板書の3文の下に、対比をひと組だけ足します。

I play games every day. (いつもの習慣)

I’m going to play games with my cousins on January 1. (1月1日に、と決まっている予定)

押さえるのは2つだけ。①be going to は be動詞の文。主語で am / is / are に変身し、たずねるときは be動詞を前に出して Are you going to ~?、答えは Yes, I am. / No, I’m not.—1学期に貯金した be動詞の型がそのまま使えます (×Do you going to ~? だけ注意)。②going to のあとは動詞のまま (原形)。

×going to plays. そして時間の言葉が目印です。every day なら「いつもの習慣」（現在形）、tomorrow・this winter・on January 1 なら「決まっている予定」。「カレンダーに書けるくらい決まっていたら be going to」—この判定はドリルまで生きて働きます。

展開：先生の冬休みプロデュース（22分）

「当てるのは終わり。ここからは、先生の冬休みのある1日を、君たちが決めます」。ペアで「先生の理想の1日」を朝・昼・夜の3文で編成します（7分）。文の型は You are going to ～. —先生に向かって宣告する形です。板書の足場：get up at ～ / eat ～ / go to ～ / watch ～ / play ～ / clean ～。ルールは3か条—①お金がかかりすぎない ②危なくない ③冬休みの1日で本当にできる。

発表はペアごとに、先生の目を見て宣告します。You are going to get up at 5 a.m. You are going to run in the park. —先生のリアクションは3種類だけ：OK! / Hmm... / No way!（拒否権はありますが、最後に必ず1プランは採択するのが約束です）。人数の多い学級は、4人班で予選→代表ペアだけ全体発表に。

全発表が終わったら挙手で投票。採択プランは先生が宣言し直します：All right. I'm going to get up at 5 a.m. on December 26.（ここで教室は沸きます）。全員がノートに「契約書」として記録—主語を先生の名前に変えた（先生の名前）is going to ～. の3文です。You are → I'm → is という be動詞の変身を、教室全員がこの10分で通過します。「3学期の最初の授業で、写真つきで英語で報告します」と約束して、展開は終了です。

まとめ：自分の「決まっていること」を2文（10分）

最後は自分の番です。冬休みに「もう決まっていること」を I'm going to ～. で2文書いて提出。「決まっている予定なんかない」という生徒には、宿題をする・大掃除を手伝う・おばあちゃんの家に行く—それも立派な決定事項だと伝えます。早く終わった生徒は隣と Are you going to ～? を1往復。提出された2文は、be動詞落ち（×I going to ～）と原形くずれの分布を見る診断材料になります。単元本文へは「自分→先生→教科書の登場人物」と冬休みを3つ並べる順で入ると、Holiday in Hokkaido（北海道での予定）がそのまま3つ目として読めます。

×I going to sleep. が出ても、導入の日は×にしないでください。「予定が言えた」ことを認め、I'm going to sleep. とリキャストで返せば十分です。この日の評価軸は「going to のあとを原形のまま言えたか」と「自分の決まっている予定が英語になったか」。なお will も同じ単元で登場しますが、導入の日には混ぜません—「未来は2種類あってややこしい」という第一印象を作らないためです（予想の will の入口はドリルの最終問題へ）。

定着・入試への接続

書く練習は同じ初出単元用の未来表現のはじめてドリル 中1版へ—be動詞の変身と「後ろは原形」という今日と同じ2点に絞り、every day（現在形が正解）の問題で時間の言葉を読む目も鍛える1枚です。中2では「決めてある予定／その場の決定」の使い分けへ発展します（全体像は未来表現の教え方ガイドへ）。そして3学期の初回、先生の報告が I got up at 5 a.m. と過去形で返ってくる—立てた予定が実話になって戻る、小さな時制の授業までがこの導入のセットです。

